

番号	表彰団体名	功績の概要
1	仙南地域広域行政事務組合 理事長 風間 康静	<p>【功績】木造消防庁舎の建設 特徴：管内4施設の木造化が完了 内訳：H22村田町，H23川崎町，H24蔵王町，H25丸森町の消防署出張所</p> <p>【団体の概要】 昭和45年に地方自治法に基づく一部事務組合として，仙南地域の2市7町を構成員として設立。主な業務は，廃棄物処理・火葬業務・消防業務・介護認定事務・滞納整理事務など。</p> <p>【建設の趣旨】 建設に際し，地域の景観を損なうことなく安心と安全が与えられること及び木のぬくもりが感じられ，地域住民から親しまれることを特に重視した。また，伐採から製材加工，建設に至るまで地元業者を率先して活用しており，地域産業の振興にも寄与している。</p>
2	仙台市長 奥山 恵美子	<p>【功績】「泉岳自然ふれあい館」の建設 特徴：県内最大の県産材利用公共施設 内訳：面積：約9千m² 県産材使用量：1,121m³</p> <p>【建設の経緯】 昭和48年に開館した「泉岳少年自然の家」を「木造で改装」することを目的に平成20年度から準備を始め，平成22年12月に工事に着手したが，東日本大震災の影響や平成25年4月5日に発生した火災により完成が遅れ，平成26年6月に建設工事が完了し7月21日に開館した。</p> <p>【施設詳細】 「泉岳自然ふれあい館」は，野外体験学習を中心とした市立小中学校の教育施設機能と，一般利用が可能な野外レクリエーション機能を併せ持つ，全国的にも稀少な大型の生涯学習施設である。 その構造は，木造一部鉄骨造りとなっており，使用された木材の大半は地元の根白石地区をはじめ，県内各地から集めたスギ等の県産材である。さらにテーブルや椅子にも県産スギが活用されており，構造部，内装，調度品に一体感を生む設計は，整然とした中にも木の温かさを感じることができる雰囲気をつくり出している。</p>
3	登米市木造災害公営住宅建設推進協議会 会長 齋藤 司	<p>【功績】「登米市木造災害公営住宅」の建設 特徴：地元協議会方式で県内初の完成引渡し 構成員：市内3森林組合，(協)ウッディ津山（製材所），宮城県森林組合連合会，宮城県木材協同組合，登米市建設職組合，宮城県建設業協会登米支部（H26年4月26日に10棟完成，残りの22棟も年内完成予定）</p> <p>【協議会設立の経緯】 登米市では，60戸の災害公営住宅を整備し，そのうち迫町佐沼地区の32戸について，木造建築とすることを計画した。この計画の受け皿となるため，市内の3つの森林組合，5つの製材工場で構成する(協)ウッディ津山，宮城県森林組合連合会，登米市建設職組合，宮城県建設業協会登米支部で協議会を設立した。</p> <p>【協議会の活動等】 協議会は「オール登米市」体制を構築したが，その運営においては市内の事業者だけでは解決しきれない「資金調達」や「優良みやぎ材」認証等の迅速化，「プレカット加工体制の強化」のため，市外の団体等の参画・協力が得られるよう尽力した。 その結果，迅速に建設が進み，南元丁地区の10棟については，平成26年4月28日に完成し，現在までに全戸に被災者が入居した。また，大網地区の22棟についても年内の入居を目指して建設を進めているところである。 なお，本協議会の仕組みを参考に，県内各地で同様の協議会が立ち上がっており，各協議会からは運営のアドバイスを求められるなど，協議会方式の模範となっている。このことは登米市内に限らず全県での県産材を利用した災害公営住宅の建設に大きく貢献している。</p>